[dõ:k]

DONC どんく

発 行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059－226－2766
FAX 059－229－0967

N⁰ 64 avril 2003 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

# 関西日仏学館が新装開館

## フランス語圏担当大臣、駐日フランス大使ら落成祝う

新装された関西日仏学館南面の一部

記念記帳するド・モンフェラン大使(左端)ら

関西日仏学館は1927年、偉大な詩人で当時駐日フランス大使であったポール・クローデルと関西財界の稲畑勝太郎氏の尽力で、日仏の学術文化交流の発展を目的として、京都市九条山に設立され、その後1936年に現在地（京都大学の西側）に、当時では珍しいコンクリートのアール・デコ調の建物を建設移転しました（登録有形文化財）。フランス政府はさらに会館の規模、活動を充実させるために1999年その大規模な改修を行うことを決定、昨秋から工事にとりかかりこの3月完成したものです。

そして3月15日、ベルナール・ド・モンフェラン駐日フランス大使の主催、ピエール＝アンドレ・ヴィゼル協力・フランス語圏担当大臣の執行により、同館で落成式がとり行われ、多数の日仏関係者が参列して会館を祝いました（三重日仏協会から井土副会長が出席）。また落成を記念してフランスの関係団体から贈られたカミーユ・クローデルの作によるポール・クローデル像が披露され、ポールの娘にあたるルネ＝クローデル・ナンテ夫人も式典にかけつけました。

新装された会館は写真のように純白で、以前に比べ南側に大きく開かれて館内も明るく、また旧図書室にかわってコンピュータやさまざまの新しいメディアも利用できる〈ポール・クローデルメディアテーク〉が設けられています。

# 二人のお母さんに聞く〈フランスに生きる〉娘たち

本紙ではこれまで「フランスに生きる三重県人」のシリーズを掲載してきましたが、今回はすこし趣向を変えて、「フランスに生きる」三重県出身の二人の女性のお母さんたち（いずれも本会会員でダメム教室の生徒）に登場いただき、娘を異国に送り出している母親のお気持ちや、フランスを訪ねたときの印象や経験などについていろいろお話をうかがいました。聞き手は編集部。

お話　荒木めぐみさん（津市、リヨン在住の音楽学生　荒木まどかさんの母）
　　日高　節子さん（亀山市、ルマン在住のパティシエール　日高・ブリュエール香織さんの母）

## 音楽修業とパティシエ夫人　どっちも思い込んだら実行するタイプ

**－まずお嬢さんがフランスへ行かれた事情などを教えてください。荒木さんから。**

**荒木**　娘・まどかは小学生のとき吉野直子さんの演奏会を聴いたのがきっかけでハープに魅せられてしまい、高校も音楽コースに進んでハープをやってました。でもこちらでは自己流になりがちで行き詰まって音楽上の疑問が続出し、どうしてもハープ音楽の本場フランスで本格的に修業したいということになって、高校を卒業してからリヨンへ行くことになったのです。在仏２年目です。

荒木まどかさん（中央）と母・めぐみさん（右）
リヨン市のホームステイ先で

**日高**　うちの娘・香織はパンや菓子作りが好きでドミニク・ドゥーセさんの店に勤めてましたが、そこでフランス人のパティシエ・ステファンさんと知り合い、職場結婚したというわけです。しばらく日本で働いてましたが１年前に出身地のルマン市に移りました。孫も３歳と１歳の女の子（愛芽里ちゃん、那実ちゃん）がおります。娘は主婦業だけでなく午後はチョコレートの修業に出かけてます。将来お店をもつ準備でしょうか。だいたい仕事も結婚もみんな勝手に決めて親は事後承諾。フランス人と結婚と聞いたときはびっくりしました。でも小さいときから親が何を言っても聞かない子でしたから。

**荒木**　うちの場合も外国行きは少し早いかなと思いましたが、本人がこれと決めた音楽をめざしていく過程でほんとうに悩んでいて、どうしてもフランスへ行って勉強したいという気持ちがよくわかりましたので、親も応援しました。１年目は夢中で楽しくやっていたようですが、２年目のこれからがいろいろ大変だと思います。今後どうなりますことやら。いい音楽会やオペラなども学生は500円くらいで聴けますので、生活は充実しているようです。

－そちらもフランス男性と結婚というようなことになるのでは？

**荒木**　いまのところ、日本人がいいと言ってます。

## 周囲にいい人たちが多く安心　荒木
## 夫婦仲さえよければ言うことなし　日高

**－向こうでの生活は？ご心配はありませんか。**

**荒木**　最初一人でホテルに泊まるときなど心配でしたが、ホームステイがピアニストのご婦人の家でとても優しくしていただいて安心です。ハープの先生のお宅もすぐお向かいで練習の音が聞こえるくらいなんですよ。リヨンは料理や染色など日本からの留学生も多く、それぞれ自立をめざしながら仲よくしているようです。ただやはり言葉のカベというか、相手に気持ちを十分に伝えたいというような場合にうまく話せず、一時は胃の調子がくるったこともあったようです。

**日高**　向こうのご両親が近くに住んでおられて、孫たちの面倒もよく見てもらいありがたいです。フランス語がよくわからない分、嫁として何か言われても気にしないでいられていいんじゃないでしょうか（笑）。こないだ「日本へ帰りたくない？」と聞いてみたら「まだ大丈夫」（笑）と言ってました。私なんかすぐお茶漬けが食べたくなるのに。いまはＥメールなんかもあってすぐ連絡がとれるしあまり心配ありません。とにかく人様にやっちゃった子ですから、ケンカせずに仲よくしてくれてさえいたらいいです。仕事の面でも日本でやってるより向こうでの方が心強いのです。何と言ってもパンもお菓子も、フランスでは歴史があり生活必需品です。日本では不安定です。おマンジュウが好きな人も多いし。

## フランス人は親切で感じがよかった　ホームパーティの会話を子どもが聞いて育つ

**－お二人ともお嬢さんを訪ねてフランスへ行かれたそうですが、どうでしたか。**

日高さん一家（ルマン市で）
右からステファン、節子、香織、アメリ、長男の皆さん

**荒木**　去年の10月、初めてのヨーロッパでした。何かフランス人は冷たいとか聞いていましたが、全然違いました。若い人もお年寄りもみんな親切で、うちの主人なんかよりもずっと（笑）。道を尋ねても嬉しそうに教えてくれました。もっとも肝心の答えがよく聞き取れませんでしたが。日本の物なんかをもっていると、珍しいのか、見知らぬ人でも「それ何？」って感じで聞いてきます。それからレストランのボーイさんなんか、ごく普通のお店ですけど、みんなやる気満々で表情豊かで好感がもてました。デザートは何があるかと聞いたら、待ってましたとばかりに、いっぱい暗記しているのを一気に喋って、「さあどれにする」って嬉しそうな顔。プロ意識というか、仕事に誇りをもっている感じでした。フランスの秋の自然も明るくて素敵でした。

**日高**　私は暮れからお正月にかけて行ったのですが、反対に雨が多く冷たくて暗い日が続きました。最後の日などパリは雪でした。現地の日本人にとってはうっとうしい辛い季節ですが、あちらの方はみんな元気に街角のマルシェに買い物に行くなど普通の感じですね。

ちょうど年末から新年ということで娘の家もステファンの実家もホーム・パーティ続き。親族のほか、お父さんの友人なども招いて夜遅くまで盛り上がってました。私は時差ぼけもあって少ししんどかったのですが我慢していたら、娘に「日本人は遠慮して言わないけど、ここはフランスだから辛かったらはっきり意思表示して失礼すればいい」と言われ、先に休ませてもらいました。パーティは飲んで食べるだけでなく、活発な議論が飛びかい、そばで子どもたちも自然に話を聞いている。いまの「核家族」の日本ではあまり経験できない、子どもの成長にとっていいことだと思いました。またパーティなんかの間、幼児の面倒は若い人たちがごく自然な感じで見てくれます。だいたい男がよくやってくれます。また、いつもお年寄りが権威がもって堂々としている様子が印象的でした。

**－ところで日仏協会の昨年秋のフランス語講座は役立ちましたか。**

**日高**　すぐ旅行に役立つという会話を習って意気込んで行ったのですが、ホテルに泊まるわけでもなく、なにしろ娘たちの家にいたわけですから、ステファンも日本語が上手で夫婦の会話さえ日本語ですし、あまり喋るチャンス？に恵まれなかった。でも、３年前に初めて行ったときとは違いました。空港のカフェで値段を聞いたり、「薬屋さんはどこですか」くらいは言いましたよ。３歳の孫は日本語とフランス語がごちゃまぜの感じです。でもお水がほしいと、De l'eau.（ドゥ・ロ）と言ったりして、聞いてるこちらは勉強になりました。孫は女の子なのに、どこで覚えたのか自分のことを「僕、僕」って言うのがおかしくて。

**－ひょっとして、それはbeaucoup（ボクー）じゃないんですか？（笑）**

音楽家とパティシエ、将来が楽しみです、ぜひがんばっていただきたいものです。今日は貴重なお話ありがとうございました。

## 4月7日より フランス語入門講座 2003

**まだ間に合います　ぜひ受講申し込みを**

恒例となりました三重日仏協会主催によるフランス語入門講座、今年もダメム先生のご担当で10回シリーズで下記のように開催します。開講が迫っておりますが、会員は優先的に受け付けますので、ぜひ受講してください。

**日　時**：4月7日（月）より毎週月曜日　午後6時～7時
**場　所**：津駅前・第一ビル
**講　師**：Jean-François DAMÊME ジャン＝フランソワ・ダメム先生（三重大学人文学部・講師）
**受講料**：三重日仏協会会員　8,000円
　　一　般　10,000円
**申し込みは**　滝沢さん　059-225-2517（夜間）　荒木さん　059-225-8962まで

## 5／24
## 第19回日本アマチュア・シャンソン・コンクール神戸大会

**あなたも挑戦しませんか（締切りは4／14）**

神戸市などの主催、神戸日仏協会、日本シャンソン協会などの後援による表記のコンクールが、5月24日（土）午後1時から神戸市立東灘区民センターで開催されますが、主催者ではいま出場者を募集しています。出場希望の方は4月14日までに、自演のシャンソンを録音したテープに審査費3,000円を添えてコンクール事務局まで申し込んでください。詳しい応募要項が三重日仏協会事務局に届いております。なお同コンクールの全国大会は6月21日（土）午後5時から神戸文化ホールで開催され、最優秀歌唱賞受賞者にはフランス往復航空券が贈られます。

## 1/25　柏木隆雄先生の文芸講演会

**ヴィクトル・ユゴーの偉大な業績と生涯を興味深く**

三重日仏協会主催、今年度の文芸講演会はすでにおなじみとなった大阪大学大学院文学研究科教授の柏木隆雄先生を講師にお願いして1月25日午後津市のアスト津で開催、一般の参加も含めて約40人が熱心に受講しました。今回は昨年生誕200年を迎えたフランスの文豪ヴィクトル・ユゴーがテーマで、題して〈パリの王様の真実〉。

柏木先生は、まず昨今文学が衰退している状況にふれて、特に日本の若者の文学、読書ばなれの傾向やその国語力、読み取る能力が衰えてきたことを指摘され、その意味でも「言葉の天才」であり、美しいフランス語を広める機関であるアリアンス・フランセーズの設立者であったユゴーの現代的意義を強調されました。そしてユゴーの生誕から年代的にその生涯を回顧しつつ、彼の詩、劇、小説すべての分野に及ぶ文学上の大成功の軌跡とともに、政治的な思想や活動においても（日本も含めて）多大な影響力をもち続けたこと、さらに破天荒とも思える私生活上のエピソードなども織り交ぜて新しい見解を示されるなど、まことに興味深い2時間のお話をいただきました。また、古書、とりわけフランスの文献の収集家でもある先生は、わざわざ数冊のユゴーの当時の貴重な初版本などを携行され、一冊ずつ聴衆に手渡して説明していただきました。講演終了後、先生を囲んでの懇親会がもたれましたが、この日講演で強烈なインパクトを受けた「ユゴー的人物像」についてみんなの話が尽きませんでした。